



江別産にこだわった 正直なものづくり

岡村 恵子 (おかむら けいこ)

江別市「まち」と「むら」の交流推進協議会・加工部会代表、
はるちゃんのとまとケチャップ工房代表



江別市は、札幌市の隣町でありながら、市面積の約40%を農地が占め、稲作、畑作、酪農・畜産など多様な農業が行われている「農業のマチ」です。その江別産の原材料を使った加工品で、江別のPRに貢献している『江別市「まち」と「むら」の交流推進協議会・加工部会』代表の岡村恵子さんにお話を伺いました。

《余剰野菜の加工からスタート》

もともとどこの農家でも家庭用に野菜を作っていました。その余剰野菜を利用した加工品作りで、とまとケチャップ作りをはじめました。約30年前にその取り組みがきっかけで、市内に次々と加工施設（工房）が開設されていきました。

最初は、加工品を製造し販売しようとしても、商品のロット数が少ないという理由で取り扱ってくれるお店も限られていました。私は、正直なものづくりをしていて、味は美味しいという自信がありました。そこで同じ思いの加工事業者が集まり、2005年に『江別市「まち」と「むら」の交流推進協議会・加工部会』ができました。現在13団体から構成されている部会では、販路拡大や加工品のPR、加工技術の向上などの研修もしています。道内のみならず全国の物産展へも足を運び、商品のPR・販売をしました。



はるちゃんのとまとケチャップ工房商品一覧

《毎回好評の「農家のかあさん土曜日」》

部会では、2006年から毎年農閑期の11月～3月までの期間に江別市内で6回ほど「農家のかあさん土曜日」を開催しています。土曜日では、江別産の農畜産物を使った、ケチャップ、チーズ、漬物、ジャムやお菓子などを販売しています。冬期でも、毎回500人ほどのお客さまが来場してくれます。対面販売を通じて、そこで出会った方々との交流やネットワークもでき、最近では、江別市以外の加工品を販売している方々が、ゲストとして「農家のかあさん土曜日」に参加しています。もちろん、私も他の場所へ伺うこともあり、双方向の交流をしています。

新型コロナウイルスの影響で3月に予定していた「農家のかあさん土曜日」が中止になりました。先行きの見えない状況ではありますが、少しでも早く「土曜日」が無事に開催できればと思っています。

部会では2014年度から、加工品の需要拡大とブランド力向上のため「えべつかあさんブランド」を創設し、江別の農畜産物加工品を認証する制度を始めました。そこでは、オリジナルの認証シールを作成して、認知度の向上にも力を入れて取り組んでいます。2019年には12商品が認証されています。

最後に岡村さんは、「将来、北海道内にある私たちのような団体を江別に集めて、全道版の「農家のかあさん土曜日」を開催したいです」と明るく思いを語ってくれました。

***今年度の「農家のかあさん土曜日」は中止となりました。**

※ 当協会ホームページ、開発調査総合研究所・調査研究報告書から「わが村は美しくー北海道」第1～9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子をご覧ください。